

飼料摂取量を維持させる肥育方法(黒毛和種去勢)

福島県農業総合センター 畜産研究所肉畜科

1 部門名

畜産－肉用牛－畜産栄養

2 担当者

富永哲

3 要旨

黒毛和種の肥育では、素牛が食欲の低下などを見せず順調に濃厚飼料を摂取し続けた場合、その個体が遺伝的に持つ産肉能力を十分に発揮させることが出来た。

- (1) 長期的には、素牛を9～10ヶ月齢で導入した後、2ヶ月間濃厚飼料を制限給与、乾草を飽食として「腹づくり」(長期間の肥育に耐える第一胃の構築)の補完をし、肥育中は稲ワラを飽食とさせることで第一胃の恒常性を保つと濃厚飼料の摂取量は維持できる。「腹づくり」の目安は腹囲と胸囲の差が20cm以上である(平成19年度参考となる成果)。
- (2) 短期的には、急激な気象条件の変化や、牛舎内作業などの人的ストレスがかかると食欲の低下が見られるが、パイン粕等良好な芳香を呈し、牛の嗜好性が高い飼料を添加することで飼料摂取量を維持できる。
- (3) 以上の条件下、県有種雄牛「登美貴」産子9頭を肥育したところ、導入時には標準発育を若干下回る大きさであったが、肥育中期に標準発育を追い越すような増体が見られ(図1)、平均で枝肉重量510kg、BMSNo.8.3、4～5等級率89%(表)と能力を十分に発揮させることが出来た(表1、写真1)。

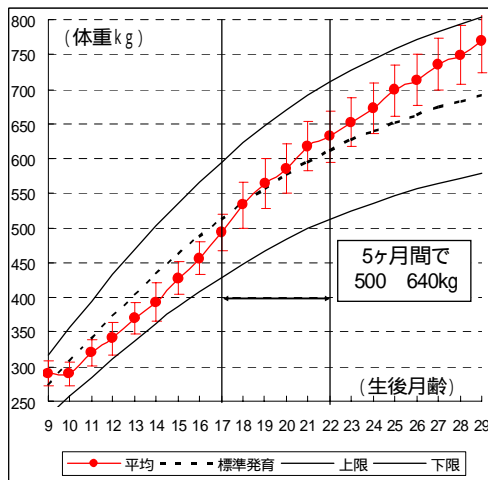


図1 体重の変化



写真1 登美貴-第5隼福-菊安 枝肉重量520kg、BMSNo.11、A5

表1 「登美貴」産子枝肉成績

父	祖父	曾祖父	日齢	導入時			肥育成績				歩留	BMS	格付		
				体重	体重/日齢	腹囲	胸囲	【腹囲-胸囲】	枝肉重量	ロース芯				バラ厚	皮下脂肪厚
登美貴	第5隼福	北国7の8	268	280	1.04	182	154	28	492	40	8.2	2.2	71.9	6	A-4
登美貴	第5隼福	菊安	299	293	0.98	185	160	25	521	56	9.9	2.6	74.4	11	A-5
登美貴	平茂勝	茂重波	269	276	1.03	178	153	25	529	57	9.5	2.2	74.6	8	A-5
登美貴	福栄	糸清水	290	271	0.93	175	153	22	462	61	7.9	1.8	75.3	10	A-5
登美貴	平茂勝	菊谷	292	297	1.02	180	159	21	486	53	9.6	3.2	73.8	7	A-4
登美貴	茂勝	平茂勝	310	298	0.96	178	157	21	537	68	10.1	2.5	76.1	9	A-5
登美貴	福桜	安平	275	326	1.19	182	163	19	537	63	9.2	2.5	74.8	10	A-5
登美貴	第5隼福	安平	262	301	1.15	178	161	17	523	46	9.5	2.6	72.9	5	A-3
登美貴	第5隼福	北国7の8	326	272	0.83	167	152	15	504	50	9.0	2.2	73.6	9	A-4

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2008)
- (2) 平成19年度参考となる成果